

教育目標

心豊かにたくましく生きる子の育成

保護者・地域の願い

- ・安全・安心な学校生活
- ・より良い人間関係の構築
- ・児童理解と適切な支援
- ・知育、徳育、体育、食育面からの育成
- ・子どもに関わる情報の発信

めざす子ども像

- 主体的に学び、意欲的に発信する子
- 礼儀正しく、思いやりのある子
- 健康に気をつけ、進んで体を鍛える子
- ふるさとに愛着を感じる子

児童の実態

- ・素直で思いやりがある。
- ・縦のつながりがあり、高学年が低学年の面倒をよくみる。
- ・何事にもまじめに取り組む。
- ・互いに意見を伝え合う力がやや弱い。

重点目標

確かな学力

- 1 主体的・対話的で深い学びのある授業づくり
- 2 言語能力の育成
- 3 伝え合う力の育成

豊かな心

- 1 互いに認め支え合う学級づくり
- 2 自己肯定感、自己有用感の育成
- 3 教育相談、支援教育の充実
- 4 前向きに取り組む心の育成

健やかな体

- 1 基礎体力の向上
- 2 基本的生活習慣の確立
- 3 情報機器の適切な利用
- 4 健康教育・食育の充実

信頼される学校

- 1 安全・安心な学校づくり
- 2 開かれた学校づくり
- 3 ふるさとを愛する心の育成
- 4 家庭・地域への情報発信

具体的な取組

- (1) 伝え合う力を育む授業づくりを通して、子ども達が主体的にかかわり合って学べるようにする。
- (2) 「話す・聞く」を系統的・重点的に取り組んでいく。音読に力を入れ、読書意欲の向上を図る。
- (3) ICT機器の活用やロイロノート等のアプリの活用により、分かる喜びを感じられる授業を目指す。

- (1) ポジティブ教育や道徳科の学習等を通して、互いの立場を尊重する態度を身につける。
- (2) 学級・学年・異学年交流で自治的に行う活動を仕組む。
- (3) アンケートや相談活動、情報モラル教育を通して、いじめ・不登校・要支援児童を早期に把握し、未然防止等適切な対応をする。

- (1) 体育の授業や業間活動等を通して運動の質と量を確保し、意欲的に最後まで粘り強く取り組ませる。(はびスポ活用)
- (2) 家庭と連携し、基本的生活習慣の確立、情報機器の適切な利用の定着をめざす。
- (3) 生活習慣の改善を意識した保健指導、給食時間等を活用した食育指導を行う。

- (1) 見守り隊やPTAと連携し、児童の安全・安心を図る。
- (2) 公民館やエコネットなどの地域と連携した学習活動を通して地域の願いを知り、ふるさとを大切に思う心を育む。
- (3) Home&Schoolを通して学年だよりや学校生活の様子を発信し、学校での児童の様子を伝える。

検証の手法

- ① 自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする活動に意欲的に取り組んだ児童95%以上
- ① 授業がよく分かったと答える児童95%以上
- ③ ICT機器の活用やプレゼン能力の育成に努めた教員95%以上

- ① 自分や相手を大切にする言動ができたと答える児童90%以上
- ② 学級・学年・異学年交流で一緒に活動するのは楽しいと答える児童95%以上
- ③ 子どもは、楽しく学校に通っていると答える保護者95%以上

- ① 体育の授業などでめあてに向かってがんばった児童95%以上
- ② 「中河小スマートルール」をもとに情報機器の適切な利用を働きかけた保護者90%以上
- ③ 保健や給食から出る資料をもとに指導ができた教員95%以上

- ① 地域について学習することで、ふるさとを大切にしたいと思うことができた児童95%以上
- ② Home&Schoolを通して学年だよりや学校生活の様子を発信することにより、学校の様子を知ることができたと答える保護者95%以上

業務改善のための取り組み

- 1 19:30以降校内に留まることは許可制とし、管理職の判断を仰ぐ。
- 2 月曜日・水曜日を「ノー残業デー」とし、全員が18:00までに退庁する。
- 3 教育DXの推進や授業時数の見直しを図る。